

## 最も大いなるものは、愛(アガペー)

コリントの信徒への手紙一 13 : 13

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

→And now abideth faith, hope, charity, these three; but the greatest of these is charity.

→charity : ἀγάπη

agápē, ag-ah'-pay アガペー; love, i.e. affection or benevolence; specially (plural) a love-feast:-(feast of) charity(-ably), dear, love.

愛、つまり愛情や慈悲。特に(複数形の)愛の饗宴:- (の饗宴) 慈善、親愛なる、愛。

※英語版聖書は、KING JAMES BIBLE 欽定訳です。

口語訳: このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

聖書協会共同訳: それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残ります。その中で最も大いなるものは、愛です。

回復訳: こういうわけで、永存するものは、信仰、希望、愛、この三つです。そして、その中で最も大いなるものは愛です。

→回復訳解説: 信仰、希望、愛

信仰は、神聖な事柄を受けて(ヨハネ 1 : 12)、霊的で見えない事柄を実体化します(ヘブル 11 : 1)。

希望は、信仰によって実体化された事柄を刈り取り、それにあずかります(ローマ 8 : 24~25)。

愛は、信仰によって受け入れられ、実体化され、希望によってあずかった事柄を享受します。それは、わたしたちを養い、人を建造し(1 コリ 8 : 1)、神を表現し、こうして律法全体を満たす(ローマ 13 : 8~10)ためです。このような愛は、霊的賜物の発展と運用のために、わたしたちを命において成長させます。そしてそれは、さらに大いなる賜物を持つ最も卓越した道です。

こういうわけで、三つの永存する美德のうち、愛は最も大いなるものです。ですから、わたしたちは愛を追い求めなければなりません(1 コリ 14 : 1)。

### 【参考】昔、キリシタンは「愛」のことを「ご大切」と言っていた

昔、キリシタンの人々は、「愛」のことを「ご大切」と言っていました。

当時、「愛」や「愛する」という言葉は、親が子に、男性が女性に対する行為について用いられ、相手を対等な人間として認め尊重するものではなく、「かわいがる」「もてあそぶ」という意味で使われました。そのような理由から、キリストの教えである「愛」(アガペー)を宣教師は、「ご大切」(=大切に思ふ)という言葉に訳しました。

キリスト教の最大のテーマである愛は、「アガペー」(agápē 神の人間に対する「愛」)です。

「神は愛です」(ヨハネの手紙一 4 : 8b)

聖書(新共同訳)に「愛」という言葉は、全部で 645 個出てきます。その中で、「神の愛(アガペー)」は 10 箇所出てきます。

聖書では、愛とは神様の本質であり、見返りを求めずに無償で相手に尽くすものであり、忍耐、謙遜、信仰を伴うものであることが明確に記されています。

ギリシア語には「愛」を表現する言葉が次の四種類あります。

1. アガペー: 真の愛、無条件の愛(古代ギリシアではあるものを他よりも優遇する愛)
2. ストルゲー: 家族愛、親子愛
3. フィリア: 隣人愛、連帯感の愛(古代ギリシアでは友人の友人に対する愛)
4. エロース: 性愛、本能・肉体的な愛(古代ギリシアでは自己を充実させる愛)

【参考】アガペーについての従来とは異なる見解

今週のテーマ

多くの人は、ギリシア語の「アガペー」が神に特有の愛を指し、「フィレオー」などの愛をあらわす言葉は、「アガペー」よりもずっと不完全な、別の種類の愛を指すと教えられてきました。また、「アガペー」は一方向的な愛、与えるだけで決して受け取ることのない愛、人間の応答とはまったく無関係な愛を指すと主張する人たちもいます。

しかし、聖書全体を通じて神の愛を注意深く研究してみると、このような考えは、一般的ではあるものの、間違いであることがわかります。第一に、「アガペー」というギリシア語は、神の愛だけでなく、人間の愛、時には誤った方向に向けられる人間の愛も指しています（Ⅱテモ4:10）。第二に、聖書全体を通じて、「アガペー」以外の多くの用語が神の愛を指しています。例えば、イエスは「父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、わたしを愛し……たからである」（ヨハ16:27）と教えられました。ここでは、ギリシア語の「フィレオー」が、人間の愛だけでなく、人間に対する神の愛についても使われています。

聖書はまた、神の愛は一方向的なものではなく、深い関係性を持っており、人間がその愛を神や他者に向けるか否かが神に大きな違いをもたらすとも教えています。